改訂：2026 年 11 月 18 日

OCI への Cisco ISE のインストール

OCI での Cisco ISE インスタンスの作成

OCI で Cisco ISE インスタンスを作成するには、次の手順を実行します。

- このタスクを開始する前に、コンパートメント、カスタムイメージ、シェイプ、仮想クラウドネットワーク、サブネット、サイト間 VPN を作成します。

  Cisco ISE インスタンスと同じコンパートメントに仮想クラウドネットワークとサブネットを作成します。

- Cisco ISE の仮想クラウドネットワークを作成するときは、[インターネット接続を使用してVCNを作成（Create VCN with Internet Connectivity）] VCN タイプを選択することをお勧めします。

ステップ 1 OCI コンソールでの Cisco ISE オプションへの移動 （1 ページ）。
ステップ 2 インスタンスの詳細の設定 （1 ページ）。
ステップ 3 Cisco ISE インスタンスの詳細オプションの設定 （2 ページ）。

OCI コンソールでの Cisco ISE オプションへの移動

OCI コンソールで Cisco Identity Services Engine（ISE）オプションに移動するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 OCI アカウントにログインします。
ステップ 2 [検索（Search）] フィールドに **Marketplace** と入力します。
ステップ 3 [リストの検索（Search for listings）] 検索フィールドで、**Cisco Identity Services Engine**（**ISE**）と入力します。

インスタンスの詳細の設定

OCI コンソールで Cisco ISE インスタンスの詳細を追加および設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 **イメージ**タイプの Cisco ISE オプションをクリックします。
ステップ 2 [インスタンスの起動（Launch Instance）] をクリックします。
ステップ 3 [リストスコープ（List Scope）]エリアで、[コンパートメント（Compartment）] ドロップダウンリストからコンパートメントを選択します。
ステップ 4 [インスタンスの作成（Create Instance）] をクリックします。
ステップ 5 [コンピューティングインスタンスの作成（Create Compute Instance）] ウィンドウで、Cisco ISE インスタンスの名前を入力します。
ステップ 6 [コンパートメントに作成（Create in Compartment）] ドロップダウンリストから、Cisco ISE インスタンスのコンパートメントを選択します。

Cisco ISE の仮想クラウドネットワークやサブネットなど、他のリソースを作成したコンパートメントを選択します。

ステップ 7 [配置（Placement）] エリアで可用性ドメインをクリックします。

ドメインによって利用可能なコンピューティングシェイプが決められます。

ステップ 8 [イメージとシェイプ（Image and Shape）] エリアで次の手順を実行します。

a) [イメージとシェイプ（Image and Shape）] エリアから、[シェイプの変更（Change Shape）] をクリックします。

b) [シェイプシリーズ（Shape Series）] エリアから、[Intel] をクリックします。

使用可能なシェイプのリストが表示されます。

c) 必要なシェイプ名の横にあるチェックボックスをオンにして、[シェイプの選択（Select Shape）] をクリックします。

ステップ 9 [ネットワーク（Networking）] エリアで次の手順を実行します。

a) [プライマリネットワーク（Primary Network）] エリアで、[既存の仮想クラウドネットワークを選択（Select existing virtual cloud network）] オプションボタンをクリックします。

b) ドロップダウンリストから仮想クラウドネットワークを選択します。

c) [サブネット（Subnet）] エリアで、[既存のサブネットを選択（Select existing subnet）] をクリックします。

d) ドロップダウン リストからサブネットを選択します。

同じコンパートメント内に作成されるサブネットが表示されます。

ステップ 10 [SSHキーの追加（Add SSH Keys）] エリアで、対応するオプションボタンをクリックして、キーペアを生成するか、既存の公開キーを使用できます。

ステップ 11 [ブートボリューム（Boot Volume）]エリアで、[カスタムブートボリュームサイズの指定（Specify a custom boot volume size）] チェックボックスをオンにして、必要なブートボリュームを GB 単位で入力します。

Cisco ISE 実稼働環境に必要な最小ボリュームは 600 GB です。この手順でブートボリュームが指定されていない場合、インスタンスに割り当てられるデフォルトのボリュームは 250 GB です。

（注） [管理しているキーでこのボリュームを暗号化（Encrypt this volume with a key that you manage）] フィールドでは、暗号化にカスタマーマネージドキーを使用します。デフォルトでは、Oracle マネージドキーが使用されます。キーの作成の詳細については、キー管理を参照してください。

Cisco ISE インスタンスの詳細オプションの設定

詳細オプションを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [詳細オプションの表示（Show advanced options）] をクリックします。

ステップ 2 [管理（Management）] タブの [インスタンスメタデータサービス（Instance metadata service）] セクションで、[認証ヘッダーが必要（Require an authorization header）] トグルを無効にします。

（注） OCI 上の Cisco ISE は IMDSv2 をサポートしません。

ステップ 3 [初期化スクリプト（Initialization script）] タブで、[クラウド初期化スクリプトの貼り付け（Paste cloud-init script）] オプションを選択します。

ステップ 4 [クラウド初期化スクリプト（Cloud-init script）]テキストボックスに必要なユーザーデータを入力します。

ステップ 5 [ユーザーデータ（User data）] フィールドに、正しい形式でパラメータを入力します。

ユーザーデータエントリを使用して設定する各フィールドには、正しいシンタックスを使用する必要があります。[ユーザーデータ（User Data）] フィールドに入力した情報は検証されません。誤ったシンタックスを使用すると、イメージの起動時に Cisco ISE サービスが起動しないことがあります。

[ユーザーデータ（User Data）] フィールドを使用して送信する設定については、次のガイドラインに従います。

表 *1 : [ユーザーデータ（User Data）] フィールドの設定のガイドライン*

フィールド名	フィールドの説明	コンプライアンスと動作変更
hostname	英数字とハイフン（-）のみを含むホスト名を入力します。ホスト名の長さは 19 文字以下で、下線（_）を含めることはできません。	シンタックスは推奨事項を満たしている必要があります。
primarynameserver	プライマリネームサーバーの IP アドレスを入力します。サポートされているのは IPv4 アドレスだけです。	Cisco ISE リリース 3.4 以降： • インストール時に [secondarynameserver] フィールドと [tertiarynameserver] フィールドを使用して、セカンダリおよびターシャリネームサーバーを設定できます。
secondarynameserver （Cisco ISE リリース 3.4 以降）	セカンダリネームサーバーの IP アドレスを入力します。サポートされているのは IPv4 アドレスだけです。	• [secondarynameserver] フィールドを空白のままにして、[tertiarynameserver] フィールドのみを使用した場合、Cisco ISE サービスは起動しません。
tertiarynameserver （Cisco ISE リリース 3.4 以降）	ターシャリネームサーバーの IP アドレスを入力します。サポートされているのは IPv4 アドレスだけです。	secondarynameserver の値が設定された後にのみ使用してください。
dnsdomain	DNS ドメインの FQDN を入力します。エントリには、ASCII 文字、数字、ハイフン（-）、およびピリオド（.）を含めることができます。	シンタックスは推奨事項を満たしている必要があります。

フィールド名	フィールドの説明	コンプライアンスと動作変更
ntpserver （Cisco ISE リリース 3.4 から **primaryntpserver** に名称変更）	同期に使用する必要がある NTP サーバーの IPv4 アドレスまたは FQDN を入力します（例：time.nist.gov）。	Cisco ISE リリース 3.4 以降： • [ntpserver] フィールド名が [primaryntpserver] に変更されました。[ntpserver] を使用すると、Cisco ISE サービスは起動しません。
secondaryntpserver （Cisco ISE リリース 3.4 以降）	セカンダリ NTP サーバーの IPv4 アドレスまたは FQDN を入力します。	• [secondaryntpserver] フィールドを空白のままにして、[tertiaryntpserver] フィールドのみを使用した場合、Cisco ISE サービスは起動しません。
tertiaryntpserver （Cisco ISE リリース 3.4 以降）	ターシャリ NTP サーバーの IPv4 アドレスまたは FQDN を入力します。	secondaryntpserver の値が設定された後にのみ使用してください。
timezone	タイムゾーンを入力します（例：Etc/UTC）。すべての Cisco ISE ノードを協定世界時（UTC）のタイムゾーンに設定することを推奨します（特に Cisco ISE ノードが分散展開されてインストールされている場合）。この手順では、展開内のさまざまなノードからのレポートとログのタイムスタンプが常に同期されるようにします。	シンタックスは推奨事項を満たしている必要があります。
password	GUI ベースのログイン用のパスワードを Cisco ISE に設定します。入力するパスワードは、Cisco ISE のパスワードポリシーに準拠している必要があります。パスワードは 6 ～ 25 文字で、少なくとも 1 つの数字、1 つの大文字、および 1 つの小文字を含める必要があります。パスワードは、ユーザー名またはその逆（iseadmin または nimdaesi）、cisco、または ocsic を含めたりそれらと同じにすることはできません。使用できる特殊文字は @~*!,+=_- . です。	ご使用のリリースの『Cisco ISE Administrator Guide』にある「Basic Setup」の章の「User Password Policy」セクションを参照してください。
ersapi	ERS を有効にするには **yes** と入力し、ERS を拒否するには **no** と入力します。	シンタックスは推奨事項を満たしている必要があります。

フィールド名	フィールドの説明	コンプライアンスと動作変更
openapi	OpenAPI を有効にするには **yes** と入力し、OpenAPI を拒否するには **no** と入力します。	Cisco ISE リリース 3.4 以降、OpenAPI サービスはデフォルトで有効になっています。インスタンスの起動時に OpenAPI 関連オプションを指定する必要はありません。
pxGrid	pxGrid を有効にするには **yes** と入力し、pxGrid を拒否するには **no** と入力します。	シンタックスは推奨事項を満たしている必要があります。
pxgrid_cloud	pxGrid Cloud を有効にするには **yes** と入力し、pxGrid Cloud を拒否するには **no** と入力します。	pxGrid クラウドを有効にするには、pxGrid を有効にする必要があります。pxGrid を拒否して、pxGrid Cloud を有効にすると、pxGrid Cloud サービスは起動時に有効になりません。 Cisco ISE リリース 3.5 以降、pxGrid Cloud は Cisco ISE GUI からのみ有効にできます。そのため、このフィールドはユーザーデータに含まれません。

ステップ 6 [作成（Create）] をクリックします。

インスタンスが作成されて使用できるようになるまで、約 30 分かかります。Cisco ISE インスタンスは、[インスタンス（Instances）] ページに一覧表示されます。

ユーザーデータパラメータ

フィールド	フォーマット	**Cisco ISE リリース 3.1**	**Cisco ISE リリース 3.2**	**Cisco ISE リリース 3.3**	**Cisco ISE リリース 3.4**	**Cisco ISE リリース 3.5**
hostname	hostname=<hostname of Cisco ISE>	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象
primarynameserver	primarynameserver=<IPv4 address> （primarynameserver=<IPv6 address> は Cisco ISE リリース 3.5 から AWS でサポートされています）	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象 Cisco ISE リリース 3.5 以降では、AWS 展開で IPv6 アドレスがサポートされています。

フィールド	フォーマット	**Cisco ISE リリース 3.1**	**Cisco ISE リリース 3.2**	**Cisco ISE リリース 3.3**	**Cisco ISE リリース 3.4**	**Cisco ISE リリース 3.5**
secondarynameserver	secondarynameserver=<IPv4 address> （secondarynameserver=<IPv6 address> は Cisco ISE リリース 3.5 から AWS でサポートされています）	サポート対象外	サポート対象外	サポート対象外	サポート。 [tertiarynameserver] フィールドを使用する場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。	サポート。 [tertiarynameserver] フィールドを使用する場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。 Cisco ISE リリース 3.5 以降では、AWS 展開で IPv6 アドレスがサポートされています。
tertiarynameserver	tertiarynameserver=<IPv4 address> （tertiarynameserver=<IPv6 address> は Cisco ISE リリース 3.5 から AWS でサポートされています）	サポート対象外	サポート対象外	サポート対象外	サポート。 このフィールドを使用する場合は、最初に [secondarynameserver] フィールドに値を入力する必要があります。	サポート。 このフィールドを使用する場合は、最初に [secondarynameserver] フィールドに値を入力する必要があります。 Cisco ISE リリース 3.5 以降では、AWS 展開で IPv6 アドレスがサポートされています。
dnsdomain	dnsdomain=<example.com>	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象

フィールド	フォーマット	**Cisco ISE リリース 3.1**	**Cisco ISE リリース 3.2**	**Cisco ISE リリース 3.3**	**Cisco ISE リリース 3.4**	**Cisco ISE リリース 3.5**
ntpserver	ntpserver=<IPv4 address or FQDN of the NTP server> （ntpserver=<IPv6 address or FQDN of the NTP server> は Cisco ISE リリース 3.5 から AWS でサポートされています）	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象外。 このフィールドは、Cisco ISE リリース 3.4 以降で primaryntpserver に置き換えられます。ntpserver を使用すると、Cisco ISE サービスを起動できない場合があります。	サポート対象外。代わりに primaryntpserver を使用します。
primaryntpserver	primaryntpserver=<IPv4 address or FQDN> （primaryntpserver=<IPv6 address or FQDN of the NTP server> は Cisco ISE リリース 3.5 から AWS でサポートされています）	サポート対象外	サポート対象外	サポート対象外	サポート。 ntpserver は、Cisco ISE リリース 3.4 以降でこのフィールドに置き換えられます。	サポート。 Cisco ISE リリース 3.5 以降では、AWS 展開で IPv6 アドレスがサポートされています。

フィールド	フォーマット	**Cisco ISE リリース 3.1**	**Cisco ISE リリース 3.2**	**Cisco ISE リリース 3.3**	**Cisco ISE リリース 3.4**	**Cisco ISE リリース 3.5**
secondaryntpserver	secondaryntpserver=<IPv4 address or FQDN> （secondaryntpserver=<IPv6 address or FQDN of the NTP server> は Cisco ISE リリース 3.5 から AWS でサポートされています）	サポート対象外	サポート対象外	サポート対象外	サポート。 [tertiaryntpserver] フィールドを使用する場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。	サポート。 [tertiaryntpserver] フィールドを使用する場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。 Cisco ISE リリース 3.5 以降では、AWS 展開で IPv6 アドレスがサポートされています。
tertiaryntpserver	tertiaryntpserver=<IPv4 address or FQDN> （tertiaryntpserver=<IPv6 address or FQDN of the NTP server> は Cisco ISE リリース 3.5 から AWS でサポートされています）	サポート対象外	サポート対象外	サポート対象外	サポート。 このフィールドを使用する場合は、最初に [secondaryntpserver] フィールドに値を入力する必要があります。	サポート。 このフィールドを使用する場合は、最初に [secondaryntpserver] フィールドに値を入力する必要があります。 Cisco ISE リリース 3.5 以降では、AWS 展開で IPv6 アドレスがサポートされています。
timezone	timezone=<timezone>	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象

フィールド	フォーマット	**Cisco ISE リリース 3.1**	**Cisco ISE リリース 3.2**	**Cisco ISE リリース 3.3**	**Cisco ISE リリース 3.4**	**Cisco ISE リリース 3.5**
username	username=<admin>	サポート対象（例：<admin>） Cisco ISE リリース 3.1 パッチ 1 からサポートされています。	サポート対象外。 iseadmin が既定のユーザーです。	サポート対象外。 iseadmin が既定のユーザーです。	サポート対象外。 iseadmin が既定のユーザーです。	サポート対象外。 iseadmin が既定のユーザーです。
username	username=iseadmin	必須ではありません	必須	必須	必須	必須
password	password=<password>	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象
ersapi	ersapi=<yes/no>	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象
openapi	openapi=<yes/no>	サポート対象	サポート対象	サポート対象	OpenAPI はデフォルトで有効になっています。	OpenAPI はデフォルトで有効になっています。
pxGrid	pxGrid =<yes/no>	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象	サポート対象
pxgrid_cloud	pxgrid_cloud=<yes/no>	サポート対象外	サポート対象外	サポート。 これは、Cisco ISE リリース 3.3 および 3.4 でのみサポートされています。	サポート。 これは、Cisco ISE リリース 3.3 および 3.4 でのみサポートされています。	サポート対象外。 Cisco ISE リリース 3.5 以降、pxGrid Cloud は Cisco ISE GUI からのみ有効にできます。

パラメータシンタックス要件

クラウドで Cisco ISE のユーザーデータパラメータを指定する場合は、属性または値を一重引用符または二重引用符で囲まないでください。すべての値を引用符を使用せずにプレーンテキストで入力する必要があります。

無効なエントリ	有効なエントリ
hostname="i34a"	hostname=i34a
primarynameserver="9.9.9.9"	primarynameserver=9.9.9.9
dnsdomain="example.com"	dnsdomain=example.com
primaryntpserver="north-america.pool.ntp.org"	primaryntpserver=north-america.pool.ntp.org

Cisco ISE リリース 3.3 以降、検証出力メッセージはシリアルコンソールに表示されます。これらのメッセージは、出力の生成時にシリアルコンソールが開いている場合にのみ表示されます。

Terraform スタックファイルを使用した OCI での Cisco ISE インスタンスの作成

Terraform スタックファイルを使用して OCI で Cisco ISE インスタンスを作成するには、次の手順を実行します。

OCI で、SSH キー、仮想クラウドネットワーク（VCN）、サブネット、ネットワーク セキュリティ グループ、その他の必要なコンポーネントなど、Cisco ISE インスタンスに必要なリソースを作成します。OCI での Terraform の使用については、Oracle のドキュメントを参照してください。

ステップ 1 OCI での Cisco ISE スタックの作成 （10 ページ）。
ステップ 2 Cisco ISE インスタンスの変数の設定 （11 ページ）。
ステップ 3 設定の確認と OCI での Cisco ISE インスタンスの作成 （12 ページ）。

OCI での Cisco ISE スタックの作成

OCI で Cisco ISE スタックを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 OCI アカウントにログインします。
ステップ 2 検索フィールドを使用して、**マーケットプレイス**を検索します。
ステップ 3 [リストの検索（Search for listings）] フィールドで、**Cisco Identity Services Engine（ISE）**と入力します。
ステップ 4 [Cisco Identity Services Engine（ISE）スタック（Cisco Identity Services Engine (ISE) Stack）] をクリックします。
ステップ 5 表示される新しいウィンドウで、[スタックの作成（Create Stack）] をクリックします。
ステップ 6 [スタック情報（Stack Information）] ウィンドウで次の手順を実行します。
a) [マイ設定（My Configuration）] をクリックします。
b) [コンパートメントに作成（Create in Compartment）] ドロップダウンリストから、Cisco ISE インスタンスを作成するコンパートメントを選択します。

Cisco ISE インスタンスの変数の設定

Cisco ISE インスタンスの変数を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [変数の設定（Configure Variables）] ページで、次の手順を実行します。

a) [ホスト名（Hostname）] フィールドに、ホスト名を入力します。

b) [シェイプ（Shape）] ドロップダウンリストから、使用する OCI シェイプを選択します。

[VM.Optimized3.Flex] を選択した場合は、[Flex OCPU（Flex OCPUs）] ドロップダウンリストから必要な値を選択します。[Flexメモリ（GB）（Flex Memory in GB）] フィールドには、対応する値が表示されます。他のシェイプの場合、これらの値は事前に設定されており、スタック形式で表示されません。

c) [Boot Volume Size] フィールドには、前の手順で選択したシェイプに基づいて必要な値が自動的に表示されます。

1. [Vault] フィールドで、ブートボリューム暗号化キーの Vault を選択します。
2. [Volume Encryption Key] フィールドで、ブートボリュームを暗号化するキーを選択します。

Cisco ISE リリース 3.3 以降、[ボリューム暗号化キー（Volume Encryption Key）] フィールドと [Vault] フィールドでは、カスタマーマネージドキーを暗号化に使用することをお勧めします。デフォルトでは、**Oracle マネージドキー**が使用されます。キーの作成の詳細については、キー管理を参照してください。

d) [SSHキー（SSH Key）] エリアで、SSH キーファイルをアップロードするか、SSH キーコードを貼り付けます。

e) [タイムゾーン（Time Zone）] ドロップダウンリストから、タイムゾーンを選択します。

f) [可用性ドメイン（Availability Domain）] ドロップダウンリストで、リージョンのドメインのリストからオプションを選択します。

g) [仮想クラウドネットワーク（Virtual Cloud Network）] ドロップダウンリストで、前に選択したコンパートメントの VCN のリストからオプションを選択します。

h) [サブネット（Subnet）] ドロップダウンリストで、選択した VCN に関連付けられているサブネットのリストからオプションを選択します。

i) （任意）[ネットワークセキュリティグループ（Network Security Group）] ドロップダウンリストで、前に選択したコンポーネントに関連付けられているセキュリティグループを選択します。

[パブリックIPアドレスの割り当て（Assign Public IP Address）] チェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco ISE インスタンスにプライベート IP アドレスのみを割り当てる場合は、チェックボックスをオフにすることができます。

j) [プライベートIPアドレス（Private IP Address）] フィールドに、選択したサブネットで定義されている範囲内の IP アドレスを入力します。

このフィールドを空白のままにすると、OCI DHCP サーバーが Cisco ISE に IP アドレスを割り当てます。

k) [DNS名（DNS Name）] フィールドにドメイン名を入力します。

l) [ネームサーバー（Name Server）] フィールドに、ネームサーバーの IP アドレスを入力します。

Cisco ISE リリース 3.4 以降、

- [ネームサーバー（Name Server）] フィールドの名前が [プライマリネームサーバー（Primary Name Server）] に変更されました。
- [セカンダリネームサーバー（Secondary Name Server）] フィールドには、セカンダリネームサーバーの IP アドレスを入力できます。
- [ターシャリネームサーバー（Tertiary Name Server）] フィールドには、ターシャリネームサーバーの IP アドレスを入力できます。このフィールドを使用してアプリケーションを正常に起動するには、[セカンダリネームサーバー（Secondary Name Server）] フィールドを空白のままにしないでください。

m) [NTPサーバー（NTP Server）] フィールドに、NTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。エントリは入力時に検証されません。

Cisco ISE リリース 3.4 以降、

- [NTPサーバー（NTP Server）] フィールドの名前が [プライマリNTPサーバー（Primary NTP Server）] に変更されました。
- [セカンダリNTPサーバー（Secondary NTP Server）] フィールドには、セカンダリ NTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力できます。エントリは入力時に検証されません。
- [ターシャリNTPサーバー（Tertiary NTP Server）] フィールドには、ターシャリ NTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力できます。エントリは入力時に検証されません。このフィールドを使用してアプリケーションを正常に起動するには、[Secondary NTP Server] フィールドを空白のままにしないでください。

n) [ERS] ドロップダウンリストから、[はい（Yes）] または [いいえ（No）] を選択します。
o) [オープンAPI（Open API）] ドロップダウンリストから、[はい（Yes）] または [いいえ（No）] を選択します。
p) [pxGrid] ドロップダウンリストから、[はい（Yes）] または [いいえ（No）] を選択します。
q) [pxGridクラウド（pxGrid Cloud）] ドロップダウンリストから、[はい（Yes）] または [いいえ（No）] を選択します。Cisco ISE リリース 3.5 以降、pxGrid Cloud は UI からのみ有効にできます。そのため、このフィールドは使用できません。
r) [パスワード（Password）] および [パスワードの再入力（Re-enter Password）] フィールドに Cisco ISE のパスワードを入力します。パスワードは Cisco ISE のパスワードポリシーに準拠し、最大 25 文字である必要があります。

ステップ 2 [Next] をクリックします。

[レビュー（Review）] ウィンドウに、スタックで定義されているすべての設定の概要が表示されます。

設定の確認と OCI での Cisco ISE インスタンスの作成

これまでに作成した設定を確認し、Cisco ISE インスタンスを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 情報を確認し、変更がある場合は [前へ（Previous）] をクリックして変更します。

ステップ 2 [作成したスタックで適用を実行（Run Apply on the created stack?）] エリアで、[適用を実行（Run Apply）] チェックボックスをオンにすると、[作成（Create）] をクリックしたときにスタックが構築されます。

[適用を実行（Run Apply）] を選択していない場合、[作成（Create）] をクリックしたときにスタック情報が保存されます。後で [スタック（Stacks）] ウィンドウからスタックを選択し、[適用（Apply）] をクリックしてビルドを実行できます。

ステップ 3 [作成（Create）] をクリックします。

ステップ 4 OCI の [インスタンス（Instances）] ウィンドウに移動します。

インスタンスは、スタック形式で指定したホスト名とともにリストされます。ホスト名をクリックすると、設定の詳細が表示されます。

Cisco ISE インスタンスは、約 30 分で OCI で起動できるようになります。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。